

# 「クールビズ効果」

やまぐち ようこ  
山口 洋子

サービス・流通連合 中央執行委員

今年の夏も暑い。しかし、暑さの中にも何か涼しげな風景が見える。「COOL BIZ(クールビズ)」だ。このクールビズ、かつて、打ち上げたものの花開くことなく消えた「省エネルギー」の二番煎じとおもいきや、どうしてどうしてかなり認知度は高い。

そもそも国際的な約束である京都議定書で義務づけられた、二酸化炭素、メタン等温室効果ガスの削減率6%(2008~2012年の間に日本が達成しなければならない)の実現に端を発したものであって、ビジネスパーソンの単なるファッションではないことはご承知のとおりである。1年を通してスーツ(背広とは言わなくなったのだろうか?)とネクタイが仕事着というより、ビジネス戦争を勝ち抜くための鎧のように身につけているビジネスパーソンにとって、環境問題という大きな課題を突きつけられたとはいえ、「上着を脱ぎネクタイをはずそう」といわれたときの戸惑いの大きさは察して余りある。ビジネス戦士から地球防衛軍となって、温暖化をストップするために鎧を脱いだ勇気に私は大きな拍手を送りたい。なぜかという、その効果は大きいと思うからである。

まずはとにかく地球温暖化対策の効果である。上着を脱いでネクタイをはずすことによってエアコンの温度設定を28度に設定できる。実際これを実行すれば効果はそれなりにある。次に男女共同参画効果である。夏のオフィスの風物詩に、なぜか女性達のカーディガン・厚手ソックス・ひざ掛け姿がある。男性の鎧姿を基準にエアコンの温度設定をすると、鎧を着ていない女

性たちにとってそこは南極になり、自分たちは皇帝ペンギンようになってしまう。理解しやすくするために多少誇張したが、冷え性に悩んでいた女性たちにとってクールビズは救世主と言える。もう一つの効果として、これは鎧というよりも袴(かみしも)を脱いだ効果であると思うが、「上司がラフなファッションだと話しやすい」とか「旧習にとらわれずに新しい企画が考えられるようになった」と言う声が回りから聞こえてくる。一方では、ネクタイを締めていないとだらしがなく見るとか、私服のセンスが悪すぎるとか反対論者も多いようだが、私はクールビズスタイルはビジネスパーソンにとって大きな革新であると思う。

今まで、多くのビジネスパーソンは居酒屋で、ネクタイを緩めながら、上司・会社を非難し、働けど働けど楽にならない社会システムを恨んではじっと手を見ながらお酒を飲んでいたが、そのような姿はクールビズスタイルには似合わない。非難するより、こんな上司になろう、こんな会社になりたい、と語り合ったり、税金・社会保険料は取られっぱなしで将来不安と嘆くより、そんな社会にしてたまるものかと行動を起こしたり、それがクールビズスタイル。「COOL」とは「涼しい」という意味だけではなく「イケてる」「かっこいい」という意味がある。時は丁度衆議院解散選挙真っ只中。暑さを我慢することに馴らされたビジネスパーソンが自ら「COOL」に変貌をとげたように、わが国、わが社会も「COOL」に変貌させようではありませんか。